―　片麻痺の方向け爪切り『爪切り君』　完成までの話　―

NPO 法人たくみ２１

NPO 法人たくみ２１の第１号作品の「爪切り君」が商品化されるまでの経過をお話します。

タクミ２１の作品は約３０品ありましたが作品はすべて会員個人の商品でした。
「NPO 法人なのにオリジナルの作品がひとつもないのはさびしくから　NPO 法人たくみ２１の共有オリジナル作品を作ろう」　と 2012 年の春から理事会で話し合ってきました。

でもいざ商品化するとなると色々な難題が表面化して暗礁に乗り上げそうになりましたが、その都度ハードルを乗り越えて一昨年 11 月に完成しました。

その開発秘話を会話形式でお伝えします。（　少し脚色していますが、ご勘弁のほど　）

・「何を作るの？」
　片麻痺の方の爪切り　タクミオリジナル作品を作ったらどうでしょうか？
　原田理事長の爪切りは使用しないときに小さく収納できないから置き場所が大変そう。この点を解決すれば喜ばれるのでは？

・「誰が作るの？・・　何処で作るの？」
　爪切りなら材料費の安い木工で作れるから、開発段階の試作なら五十嵐(会員)さん　の作業場を借りて作ってみます

・「購入者が怪我をされた場合の保障はできるの？」
　販売台数が少なければ保険料も安いはずですから PL 保険に加入しましょう

・「誰かが出願した先願の特許・実用新案に抵触して訴えられることはないの？」
　特許庁の電子図書館で検索しましたが、抵触する先願特許はないようです

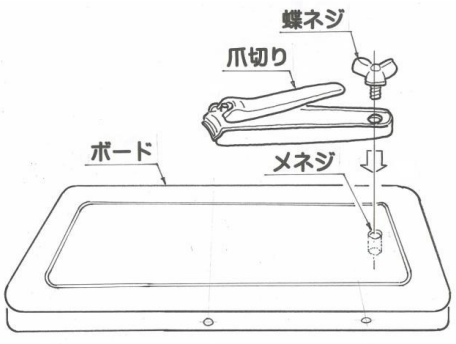
・「では逆に　タクミとして特許・実用新案を出願する必要はないの？」
　将来販売中止を強要されないための予防策として、先使用権を公証役場に届ける方法も検討したけが、『すでに商品を展示販売している実績があるならその必要もない！』と特許事務所の弁理士さんから云われたヨ。
・「試作品が完成した段階で量産するのは・・誰が何処でやるの？」
　木工作業場がある相模原市内の障害者施設「のびやか」さんへお願いしてみます。

・「取扱説明書も必要になるね？」
カメラで撮影した画像データ(紙)にトレーシングペーパーを重ねてボールペンで転写すれば結構使えますよ。根気がいるけど・・(＾ｕ＾)。

なんとか問題をひとつづつ解決して、2012 年の秋に待望のたくみ２１オリジナル商品『片麻痺の方が自分で爪が切れる爪切り君』が完成しました。

商品化にあたり大事にしたことは以下の３つ

①市場で販売されている爪切りより安いこと
②使用しないときにコンパクトに収納できること
③優しく温かいシンプルデザイン



完成までは、五十嵐会員の作業場をお借りして何回も試作を繰り返しました。
冷たい感じの鉄板を使わずに、しかも木材の無駄が少なくて創り易いデザインが完成しました。
量産にあったては、相模原市内の障害者施設「のびやか」さんを訪問して、製作して頂けるか相談しました。返事は快く「ハイ！大丈夫です」。　これで安堵しました。

「のびやかさん」に支払う作業費は施設の利用者さんから喜ばれています。また爪切り君を購入された方も喜んで買って頂いていると想像しています。

開発者、製作者、販売者、消費者がお互いにハッピーな循環ができて本当に良かったです。爪切り君の売り上げはタクミの活動費の一部として少し役立っています。

将来的にはもっとたくさん売れて、会員の皆さんやボランティアの方に交通費や食事代が支給できるようになれば良いと考えています。
今後とも NPO 法人たくみ２１をよろしくお願いいたします。